

CDブック日本の海浜地形

福本 紘著



A5判 CD+解説書
 本体 5000 円
 2003 年発行
 海青社
 077-525-1247
 ISBN4-86099-902-9

どこにどのようなものがあるのだろうか。場所（地域）によってどのように違うのであろうか。そして、なぜ違うのであろうか。これは地理屋の発想の原点といえるであろう。著者は海浜地形に魅せられて40年、宗谷岬からトカラ列島、多良間島、石垣島まで31の地域を歩き、265の地点で調査を行って、日本の海浜地形の全体像を明らかにした。著者は本研究を「地理的地形学」と呼ぶ。地形学のなかの分野を問わず、地形屋の発想・方法にはいろいろなものがある。さまざまな地域で調べた結果を類型化し、地域の特徴を描き出して考えるというのは、まさに地理屋発想の地形研究である。

浜から浜堤、前砂丘までが本書で取り上げられた海浜の範囲である。地形断面測量、植生調査、表層堆積物の粒度分析に基づき、それぞれの地域における海浜の特徴が明らかにされていく。そして、日本を海浜地形とそれを成立さ

せる環境に基づいて14の地域に区分した。いま、海浜は危機にさらされている。直接的な破壊や人工化のほか、環境条件の変化やそれにもなった自然生態系の変化、海岸浸食などにより、本来の海浜は急激に失われつつある。一方で保全のための対策もとられはじめてはいるが、その地域の自然システムの理解なしには問題解決ができない。本書では自然誌という言葉は用いられていないが、本研究ではまさに日本の海浜の自然誌が語られている。この自然誌研究が、今後の海浜の保全に重要な役割を果たすことが期待される。

さて、本書はCDブックという画期的な本（？）である。資料も含めて300枚近くの図表を効率よく検索したり、文献を参照するためにはとても有用である。本文中の図表や引用文献をクリックすると、大きな図や文献表の該当箇所ページが切り替わる。膨大なデータもさまざまな地図表とリンクして元データの簡単にアクセスできる。

500ページを超える内容にもかかわらず薄く、軽い。まさに新時代の本である。しかし、パソコンを起動し、CDを挿入しないと何も見ることができないことや、パラパラとページをめくることができないのは、何とも不便である。私は旧人類だろうか。

（島津 弘・立正大学）